廣岡選手が快心のレースで２連勝！

ランキング首位の東選手は2戦とも2位に



■2019年6月23日　■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県）　■くもり（ドライ）　■参加台数：15台

2019 ROK SHIFTER CUP 鈴鹿シリーズの第６戦／第７戦が６月23日に開催された。全６大会・11戦で行なわれるこのシリーズ戦は、今回の大会が折り返し点。イタリアで開催されるインターナショナルファイナルの招待券が懸かったポイントレースは、ここからいよいよ佳境に入る。

エントリーは最年少19歳、最年長57歳の15名。薄ぐもりの空の下で行なわれたタイムトライアルでは、第１／２戦のウィナー廣岡陸勢選手（トレンタクワトロ）が48秒298でトップとなった。0.139秒差の２番手に着けたのは伊藤慎之典選手（HRT& チャリ走 !GO!KART!）。３番手はポイントリーダーの東拓志選手（NEXT-ONE Racing）。４番手には43歳の元KFドライバー佐藤奨二選手（INTREPID JAPAN CORSE）が着け、マスタークラスのトップとなった。５・６番手は小林弘直選手（HRT）と金田翔選手（TAKAGI PLANNING）だ。

マスタークラスでは西野武志選手（LYNX）が総合８番手でクラス２番手、岡本孝之選手（ハラダカートクラブ）が総合９番手でクラス３番手となった。





ROK SHIFTER CUP ならではのスタンディングスタートで 10 周のレースが始まると、3 番グリッドの東選手が得意のスタートダッシュを決め、1 コーナーで伊藤選手をアウトからかわして 2 番手に上がった。東選手はさらにトップの廣岡選手の真後ろに迫り、2台でトップグループを形成する。そこから少し離れて、伊藤選手、小林選手、金田選手の3台が3番手争いを繰り広げる展開となった。

廣岡選手と東選手は 2〜3 車身差のまま周回を重ねていったが、レースが折り返し点を過ぎた辺りから 2 台の間隔がじわじわと開き始める。廣岡選手はファステストラップを叩き出しながらリードを約 0.8 秒まで広げ、ポール・トゥ・ウィンで今季 3 勝目を飾った。東選手は 2 位のままフィニッシュした。

トップ争いの後方では、伊藤選手が中盤から後続をやや引き離し、3 位でチェッカーを受けて今季初のトップ 3 フィニッシュ。小林選手と金田選手は最後まで接近戦を続け、小林選手が 4 位、金田選手が 5 位となった。

マスタークラスでトップとなったのは佐藤選手。オープニングラップでは 8 番手までポジションダウンしたが、そこからふたつ順位を取り戻し、総合 6 位でフィニッシュした。同クラス 2 位には総合 8 位の西野選手が、3 位には総合 9 位の西島毅選手（ぴぃたぁぱん）が入った。



WINNER：廣岡 陸勢 選手

タイムトライアルでは思ってもいなかった好タイムが出て、ほっとしました。レースで東選手が迫ってくるのは予想していたとおり。もっと接近されるかと思ったけれど、落ち着いてミスのないよう走ったら、後半は差が開きました。ただ、それで安心したせいで何回かミスしてしまいました。今のレースではスタートを失敗したので、次はきっちりスタートを決めて、最後までトップのまま逃げ切れたらいいなと思っています。



2nd PLACE：東 拓志 選手

スタートはいつもどおり、狙っていました。中盤まではけっこうペースに余裕があったけれど、終盤になったら廣岡選手のミスが減って、それでタイムが上がって着いていけなくなりました。逆転できなかったのは、単純に自分の速さが足らなかったからです。マシンの仕上がりは悪くはないけれど、いつもに比べたら乗りにくい感じがありました。



3rd PLACE：伊藤 慎之典 選手

トップ争いに絡んでいきたかっていたけれど、実際は後ろとの戦いに終始してしまいました。スタート前はトップに立って逃げ切ろうと思っていたし、トップに出られなかった時の戦略も何パターンか考えていたけれど、うまくいきませんでしたね。クルマの仕上がりはまずまず。次はスタートをうまく決めさえすれば、いい勝負ができると思います。

TONY KART KAPAN https://www.tonykart.jp/





16 周のレースが始まると、2 番グリッドの東選手がまたも好スタートを決めて真っ先に 1 コーナーへ進入。ポールの廣岡選手をかわして先頭に立った。しかし、廣岡選手の他を圧する速さはこのレースでも変わっていなかった。4 周目に東選手を抜き返してトップに復帰した廣岡選手は、周回ごとにリードを広げ、最後は東選手を 2 秒弱引き離して 2 連勝のチェッカーへ。これで廣岡選手は今シリーズ 4 勝目だ。東選手はトップ奪還のチャンスを探ったが果たせず、2 戦続けての 2 位となった。

3 位は金田選手。5 番グリッドからスタートすると、オープニングラップでふたつ順位を上げ、中盤からは 4 台の集団を抜け出して表彰台の最後の一席を獲得した。4 位には後続の追撃を振り切った小林選手が入った。

マスタークラスでは、見応えのあるバトルの末に伊藤選手をオーバーテイクした佐藤選手が、総合 5 位でトップに。ただし、佐藤選手は「トップ 2 は速かったけれど、総合 3 位は狙える位置だった」とやや悔しげだ。また、岡本選手が総合 8 位でクラス 2 位、西野選手が総合 9 位でクラス 3 位となった。

チャンピオン争いは、合計ポイントを 151 点に伸ばした東選手の大量リードが続いているが、2 番手の廣岡選手との差は 28.5 点に縮まった。ランキング 3 番手は 96.5 点の金田選手だ。一方、マスタークラスでは西島選手が 34 点で首位をキープ。そこに岡本選手（33.5 点）、西野選手（31 点）、佐藤選手（30 点）が続き、僅差の大接戦となっている。



WINNER：廣岡 陸勢 選手

東選手はタイヤをうまく残して後半に追い上げてくるのでは、という不安もあったのですが、落ち着いて安定したタイムで最後まで走れました。ゴールした時はほっとしました。久しぶりに優勝できてうれしいです。スタートは、予選で失敗したことで緊張して、また失敗してしまいました。タイヤがなくなってくると抜くことが難しくなるので、早いうちに再逆転しようと思っていました。シリーズも、この先もちろん逆転を狙っていきます。



2nd PLACE：東 拓志 選手

セッティングを煮詰めきれず、ペースが上がりませんでした。スタートではうまくトップに立てたけれど、マシンのバランスが狂っていて最初の数周で振動が出て、それで精神的にも追い込まれてしまいました。ただ、後半になって廣岡選手のペースが落ちてくることもあるだろうと思って、最後までレースをあきらめずに走りました。



3rd PLACE：金田 翔 選手

レース前日からあまり調子が良くない状況が続いて、予選もそれほど速くなかったけれど、決勝は気持ちを切り替えていったのが良かったのかなと思います。タイムが出ないのはドライバーに原因があったようですね。決勝のペースでタイムトライアルから走れていたら、もっといい結果だったと思うので、次は最初から気持ちを切り替えていきます。

【NEXT RACE】2019 ROK SHIFTER CUP 鈴鹿シリーズ 第8 戦／第9 戦　2019 年 7 月21 日 三重県・鈴鹿サーキット国際南コース

TONY KART KAPAN https://www.tonykart.jp/